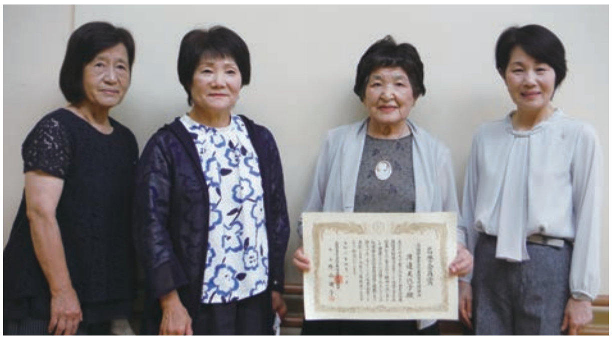
高校生が考える東海村の魅力とは？

東海村の魅力探し！ 東海高校生が「いばたん」に挑戦

茨城県立東海高等学校２年生が、茨城大学が主催する「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト」(いばたん)への挑戦をスタートしました。これは「総合的な探究の時間」を活用し、それぞれが考える村の魅力について、動画等の作成を行うもの。その幕開けとして、６月17日、茨城大学の学生と、役場の職員が出前授業を行いました。コンテストの概要や東海村についての講義に熱心に耳を傾けた生徒たち。講義後には「村外から通っているので、自分の目で見つけた村の魅力を伝えていきたい」など、コンテストへの意気込みを語ってくれました。

【写真左から】川崎敏美さん(東海村食生活改善推進員連絡協議会副会長)、加藤啓子さん(同協議会副会長)、渡邊さん、石丸美代子さん(東海村食生活改善推進員連絡協議会会長)



活動への熱意や思いは多くの会員のお手本に

「全国食生活改善推進員協議会名誉会員賞」を受賞

渡邊美代子さん(大山台)が「全国食生活改善推進員協議会名誉会員賞」を受賞したことを受け、６月14日、贈呈式が行われました。これは、食育活動を行う90歳以上の食生活改善推進員に贈られるもので、本村では初めての受賞となります。渡邊さんは、30年以上にわたり村民の食生活改善活動に積極的に取り組み、地域の健康づくりに貢献してきました。受賞を受け「皆さんのおかげで活動を続けることができ、感謝しています。これからも食の大切さを地域の方々に伝えていきたいです」と話した渡邊さん。おめでとうございます。

石神の古代ロマン 約1,500年前の埴輪発見！

戸ノ内古墳から複数の埴輪が出土

６月８日、願船寺(石神外宿)境内で戸ノ内古墳の確認調査が行われました。この結果、古墳の周りを巡る溝から多くの埴輪が発見され、見学者から驚きの声が上がりました。発見された埴輪は、顔を赤く塗ったひざまずく王や巫女、かぶとをかぶった武人姿の人物埴輪、家の形をした埴輪などです。これらは古墳での祭祀の様子を再現しているように思えます。このような一つの場面が読み取れる状態で発見されることは大変珍しく、今後注目を集める可能性があります。今回の出土品は、歴史と未来の交流館で整理・復元していく予定です。

①

①特徴のある埴輪を次々と発見 ②見学に訪れた石神小学校の子どもたちは、埴輪に興味津々でした ③埴輪を調査する中泉雄太さん(歴史と未来の交流館学芸員)の真剣な様子

②

③

④

戸ノ内古墳では、約10年前にも人物埴輪が出土しています(写真④)。この埴輪は、7月24日(土)に開館する歴史と未来の交流館での展示を予定していますので、村内から出土した埴輪をぜひご覧ください。